令和３年度　学校経営計画に対する中間評価

石川県立飯田高等学校

	重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1	確かな学力の醸成のために生徒の主体的な学びを通して、思考力・判断力・表現力を育成する。	①	教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る	1・2学年それぞれで目標基準を Ａ： すべて達成した Ｂ： ２つ達成した Ｃ： １つ達成した Ｄ： 達成できなかった	１年 A 60以上16.7% 55以上27.3% 50以上51.5% ２年 B 60以上11.0% 55以上21.9% 50以上39.7%	成　果：７月進研模試では、１年生は良好である。２年生についても、過去回と比較すると全体的に成績が上昇してきている。 課　題：２年生の上位層が薄い。 改善策：学年会や進路連絡会を通して生徒の学習状況を把握し、学年と教科で連携して苦手科目、弱点分野を補強する指導を行う。
		②	進路実現可能な学力を身につけるために自立的学習習慣を定着させる。	進路アンケートで授業外学習時間を確認し、学年＋1時間を達成している生徒の割合が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	D １年33.6% ２年 1.1% ３年 0.8%	成　果：４月アンケートでは、過去３年間と比較すると、どの学年も昨年度に次いで２番目に多い割合である。 課　題：学力幅が大きく、学習時間を一律に引き上げるのは難しい。 改善策：授業の充実に継続的に取り組み、隙間時間の活用や自主学習につなげる。また、他を牽引するような上位層を育成するため、高い目標を掲げ、各学年で学習習慣の確立に取り組む。
		③	公務員志望者が幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、実際の公務員試験に対応できる力を育成する。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が Ａ： 60%以上 Ｂ： 40%以上 Ｃ： 30%以上 Ｄ： 30%未満	A 60%	成　果：３年生対象公務員模擬試験最終回で、受験者１０名中Ｂ判定４名、Ａ判定２名の計６名でちょうど６０％であった。 課　題：１次試験（教養・適性）優先、また業務内容の理解が十分でなく、２次の面接への対応が不十分。 改善策：各職種での業務内容の指導を徹底し、面接での適切な応答を自発的に考えさせる。
		④	研究授業、互見授業により、探究的な学習活動や主体的な学びを推進して、思考力を育成する。	授業改善への取組に年間を通じて参加した回数が Ａ： 5回以上 Ｂ： 4回 Ｃ： 3回 Ｄ： 3回未満	未	年度末にアンケートを実施する。
				授業改善アンケート項目⑥「この授業で学力がつく」⑩「友人と意見を共有することにより理解を深めることができる」の評価が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	A ⑥94% ⑩95%	成　果：授業改善アンケート項目⑥ならびに⑩について、Ａ「あてはまる」Ｂ「だいたいあてはまる」の肯定的評価の合算が、どちらも90パーセントを超えている。 課　題：後期も、この評価を維持したい。 改善策：後期には、研究授業が７回予定されている。これらの授業案作成や参観を授業改善に役立てたい。
2	生徒の人間関係力を育成することにより、円滑な社会生活を送る資質を養い、人間力を育む。	①	HR活動や委員会活動を通して、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係力を育てる。	校内の活動で、十分な意見交換や協働した取組が日常的に達成できたと考える生徒の割合が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	A 93%	成　果：ほとんどの生徒は、ＨＲ活動や委員会活動を通して、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係力を育てることができている。 課　題：１年生であまり達成できなかったと回答した割合が高い。 改善策：今後の生徒会活動や学校行事を有効に活用し、積極的な活動を支援する。
		②	携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と1日の使用時間を削減する指導を進める。	生徒1人あたりの携帯・スマートフォンの学習以外の1日平均使用時間が Ａ： 30分以内 Ｂ： 40分以内 Ｃ： 50分以内 Ｄ： 50分より長い	D 67分	成　果：スマホの使用内容を精選し、学習活動に積極的に活用する生徒が増えている。 課　題：２年生での使用時間が多い。 改善策：学習時間の確保でスマホの使用時間を減らすよう生活習慣を見直させる。
		③	時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	「遅刻0の日数」が、「年間授業日数」に対して Ａ： 85%以上 Ｂ： 75%以上 Ｃ： 65%以上 Ｄ： 65%未満	C 72%	成　果：ほとんどの生徒は、時間厳守の習慣の確立し、遅刻することなく登校している。 課　題：特定の生徒が遅刻の常習となっている。 改善策：遅刻する生徒には、担任と連携し、遅刻防止の個別指導に取り組んでいく。
		④	挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	日常的に挨拶ができ、規則を守ることができた生徒の割合が Ａ： 85%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	A 98%	成　果：ほとんどの生徒は、挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣が十分身に付いている。 課　題：頭髪服装検査、自転車での交通違反などで指導を受ける生徒がいる。 改善策：学校全体の挨拶運動やマナー向上の運動を通じて、個人の生活習慣の定着に結びつけていく。
3	地域社会や地元中学校と連携した取組により、探究力・社会力を育成する。	①	他者や地域と協働した探究学習を行い、学びに対する前向きな心を育む。	ゆめかなプロジェクト（総合的な探究の時間）に対して、生徒の満足度が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	未	１１月・２月のアンケートで評価。
		②	各教科の授業や探究学習において地元小・中学生と高校生がともに学んだ回数が、 Ａ： 20回以上 Ｂ： 15回以上 Ｃ： 10回以上	市内小・中学生と高校生がともに学んだ回数が、 Ａ： 20回以上 Ｂ： 15回以上 Ｃ： 10回以上	未	コロナウイルス感染症の影響で未実施。今後オンラインでの交流を検討中。
		③	地元への愛着心を涵養し、地元産業に貢献する意欲を持った人材を育成する企業見学会、講演会を実施する。	企業見学会、講演会等により、地元に就職することについて理解を深め、以前より地元に貢献する意欲が高まったと答えた生徒の割合が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 10回未満	未	新型コロナウイルス感染症拡大のため、７月に予定していた地元企業見学会が中止となったため判定の材料がない。ただし、３年生の民間就職希望者１１名のうち１０名が地元企業への就職を希望している。また、１２月に２年生を対象とした「地元企業を知る会」の実施を予定している。
		④	「産学官地域連携人材育成事業」と、地域学などにおいて地域と連携した授業展開をすすめ、地域愛を育てる。	地域の理解と貢献意識が向上した生徒の割合が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	未	１０月・２月のアンケートで評価。
		⑤	生徒会活動や部活動ごとに、ボランティア活動や小・中学校と合同練習会などを積極的に行い、地域社会に貢献できる人材を育てる。	年間を通して地域への理解と貢献意欲が向上した生徒の割合が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	未	２月のアンケートで評価。
4	効率的な業務や指導法の改善により、ワークライフバランスを実現する。	①	可能な限りアンケートを電子媒体で行い、効率的な業務改善を推進する。	校内で行われたアンケートのうち、電子化されたアンケートの割合が Ａ： 90%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	B 76%	成果：昨年と比較して、多くの分掌でアンケートの電子化を実践している。 課題：アンケートを電子化すると紙媒体よりも回収率が下がる。 改善策：回答締切日の前日や当日に一斉メールでお知らせするとともに、電子化されたアンケートの回答方法をわかりやすく工夫する。
		②	オンラインでの会議の参加回数を増やし、効率的な業務改善を推進する。	オンライン会議によって、負担が軽減し、ワークライフバランスに良い影響を与えたと感じた教員の割合が Ａ： 60%以上 Ｂ： 50%以上 Ｃ： 40%以上 Ｄ： 40%未満	A 71%	成果：コロナ禍ということや、県で推進しているＧＩＧＡスクール構想もあり、職員室でオンライン研修や会議に出席している姿が昨年度よりも多い。 課題：月１回総務課として、オンライン推進のお知らせを流しているが、それ以外の有効な手立てが今のところない。 改善策：お知らせや推進に関する取組について、新た手立てを総務課として提案する。
		③	職場環境を良好にし、環境に配慮したごみの削減を推進する。	資源ごみのリサイクルに積極的に活動することができ、職場環境を良好に保つことができたと感じた教員の割合が Ａ： 70%以上 Ｂ： 60%以上 Ｃ： 50%以上 Ｄ： 50%未満	A 91%	成　果：ゴミの分別や資源ゴミのリサイクルを年度当初に呼びかけた結果、教員が心掛けたり、環境美化に対して意識が高まったとアンケートより回答があった。（当てはまる：52%、まあまあ当てはまる：39%、あまり当てはまらない：8%、当てはまらない：0%であった。） 課　題：全教員の意識が共通し行動できるているとはいえない。 改善策：より多くの教員が環境美化への意識を更に高められるようにＩＣＴツールを活用するなどの働きかけを進める。
5	GIGAスクール構想実現に向けて、授業力向上や校務の効率化に積極的に取り組む。	①	GIGA校内研修年間計画に基づいて，研修をすすめる。	教科の授業で最低1回1人1台端末を用いた教員の割合が Ａ： 80%以上 Ｂ： 60%以上 Ｃ： 40%以上 Ｄ： 40%未満	B 65%	成　果：積極的に授業に取り入れる教員が増えてきた。 課　題：使う場面を見いだせない教員がいる。 改善策：早期に生徒ひとり一台端末を用いた授業を実施することを研修会や個別対応により推進する。
		②	GIGAスクール構想の取組により、教師の授業力が向上し、生徒が積極的かつ主体的に授業に臨む姿勢を涵養する。	タブレットを活用した授業で，学ぶ興味や意欲が増した生徒の割合が Ａ： 80%以上 Ｂ： 70%以上 Ｃ： 60%以上 Ｄ： 60%未満	未	９月のアンケートで評価。
		③	働き方改革を推進するために，ICTを積極的に活用し効率的に業務を遂行する。	GIGA校内研修やツール活用の情報共有で、効率的な業務を行うことが出来たと感じる教員の割合が Ａ： 90%以上 Ｂ： 80%以上 Ｃ： 70%以上 Ｄ： 70%未満	C 75%	成　果：マイクロソフト「Teams」等を用いた教員間の情報共有が進んできた。 課　題：複数のツールを並行して使っているため，混乱を生じる場合がある。 改善策：ツールの情報を統合し、目的による使い分けに習熟することにより，業務効率を上げる。